

八戸市新美術館整備基本構想の概要について

○概要

市民や文化芸術関係者、市内外の有識者など幅広い所属の方々からの意見を反映させながら、新美術館の整備に向けた基本的な考え方を示す基本構想を策定

○これまでの検討状況

- ・ 4月～5月上旬 庁内関係課意見交換会、基本構想骨子案作成
- ・ 5月20日(金) 総務協議会
- ・ 5月21日(土) 第1回有識者会議開催
- ・ 5月31日(火)～6月4日(土) 市民・関係団体等との意見交換会開催（40組参加）
- ・ 6月中旬 基本構想素案作成
- ・ 6月16日(木) 屋内スケート場・スポーツ文化施設建設特別委員会
- ・ 6月21日(火)～7月20日(水) パブリックコメント実施（23名/85件）
- ・ 7月9日(土) 八戸の新しい美術館整備のための市民勉強会（市共催）
- ・ 7月15日(金) 第2回有識者会議開催
- ・ 8月19日(金) 総務協議会、新美術館と青森銀行八戸支店新店舗に関する覚書調印式
- ・ 8月～9月 基本構想修正案の検討（有識者会議メンバーの意見調整等）

○基本構想の概要

1. 新しい美術館のビジョン

テーマ：「アート・エデュケーション・ファーム」

～種を蒔き、人を育み、100年後の八戸を創造する美術館～

(1)基本理念

- ①アートの文脈で地域を語り「八戸の美」に迫る美術館
- ②アートが中心にある環境で「八戸の人」を育む美術館
- ③アートの力を「八戸のまち」に波及させる美術館

(2)目指す都市像

- ・ ひと・産業・文化が輝く北の創造都市（第6次八戸市総合計画）
- ・ 文化芸術を通して市民が生き生きと心豊かに暮らせるまち、文化芸術の力を活用した魅力あふれるまち、八戸の実現（八戸市文化のまちづくりビジョン）

2. 新しい美術館のミッション

(1)基本方針

- ①「八戸の美」に迫るために
 - ・ 日常生活に潜む「美」をアートの力で可視化・資源化し世界へ発信
 - ・ 収蔵作品やアート活動を地域の宝として記録・保存し後世へ継承
 - ・ 八戸でしか作り得ない作品が生まれる環境を創出
- ②「八戸の人」を育むために
 - ・ 本物の美術と向き合える体験機会と創作・表現活動の場を提供
 - ・ 新しい視座で新しい価値や関係性を創る人が生まれる環境を整備
 - ・ 生きたコミュニケーションの場や生きる力を体得できる場を構築
- ③「八戸のまち」に波及させるために
 - ・ 様々なジャンルのアート活動から新たな活動の発展につながる交流の場を創出
 - ・ アートが身近に感じられる環境を創出
 - ・ 市内や北東北の各圏域と密接につながった双方向的な活動を展開

(2)新しい美術館が持つ3つの機能

- ・「美術館機能」、「エデュケーションセンター機能」、「アートセンター機能」の3つの軸を持つ
- ・博物館法における「博物館相当施設」としての要件を満たした美術館とする

3. 新しい美術館のアクション

(1)事業展開

- ①グローバルミュージアム事業（地域性にこだわり八戸を世界とつなぐ美術館事業）
 - ・作品の調査研究・収集保存、展示等
- ②アートエデュケーション事業（文化とまちをつくる人を育む共育普及事業）
 - ・大学・高専等との連携、エデュケーションプログラム開発等
- ③アートのまちづくり推進事業（アートの力をまちを動かす力に変える文化創造事業）
 - ・多文化推進、アートプロジェクト、情報発信等

(2)施設整備方針

①建設予定地

- ・現在の美術館及び隣接する市有地と、青森銀行の土地とを合わせた協調開発区域内で、外構等を含め効率よい配置を検討

②立地特性に基づく整備方針

- ・中心街の文化芸術施設との連携を強化し、中心街の回遊性向上を意識した整備を検討
- ・協調開発区域内は青森銀行と協議し、調和の取れた魅力ある空間・環境整備を行う

③建物の規模と必要な機能について

- ・延床面積は現在の美術館の2～3倍程度となる3,500～4,500㎡を確保
- ・無料・有料スペースを巧みに配置して、美術館の雰囲気を楽しめる空間整備を検討

④諸機能の整備イメージ

- ・3つの機能を持つ美術館として、複合的な事業展開を可能とする空間整備を検討
- ・活気があり創造の種が生まれる雰囲気を醸し出す「ワイガヤエリア」と、非日常性を感じさせる空間としての「シーンエリア」の2つの顔を持つ美術館としての整備を検討

⑤屋外空間について

- ・非日常性や鑑賞後の余韻に浸れる雰囲気を演出し、観光客や学校・仕事帰りの方々も気軽に立ち寄り、容易に美術に触れられる導線や空間整備を検討

(3)組織運営方針

①運営・事業推進体制について

- ・開館後の運営体制について当面は市直営を想定して準備し、最適な美術館の運営形態を検討
- ・外部評価機関の設置や、市民サポーターの組織化など、市民協働による美術館運営を検討

②各施設・団体等との連携体制について

- ・中心街の回遊性向上のため、商店街や近隣の文化施設、まちづくり関係団体等と連携
- ・市内各エリアとの連携や、近隣市町村・北東北三県の各エリアとの連携を強化

4. 新しい美術館の整備プラン

(1)整備スケジュール

- ・平成31年度末までに建物を建築、平成32年度後半での開館を目指す

(2)整備事業費

- ・国の制度を活用し、市の費用負担の圧縮に努めながら、今後詳細に検討する

(3)建築設計者の選定

- ・設計者（事業者）を選ぶ方式である、公募型の企画提案方式（プロポーザル方式）を採用

(4)整備に向けた取組

- ・計画段階から市民の意見が反映されるよう、シンポジウムや勉強会を開催
- ・開館に向けて市民の一体感の醸成につながるプレ事業実施と効果的な広報情報発信を実施

八戸市新美術館整備基本構想の概要について

1. ビジョン

アート・エデュケーション・ファーム
～種を蒔き、人を育む、100年後の八戸を創造する美術館～

「八戸の美」に迫る

「八戸の人」を育む

「八戸のまち」に波及させる

2. ミッション

① 「八戸の美」に迫るために

- ・日常生活に潜む美をアートの力で可視化、資源化し世界へ発信
- ・収蔵作品やアート活動を地域の宝として記録・保存し後世へ継承
- ・八戸でしか作り得ない作品が生まれる環境を創出

② 「八戸の人」を育むために

- ・本物の美術と向き合える体験機会と創作・表現活動の場を提供
- ・新しい視座で新しい価値や関係性を創る人が生まれる環境を整備
- ・生きたコミュニケーションの場や生き生きできる場を構築

③ 「八戸のまち」に波及させるために

- ・様々なアート活動から新たな活動の発展につながる交流の場を創出
- ・アートが身近に感じられる環境を創出
- ・市内や北東北の各圏域と密接につながった双方向的な活動を展開

- 従来の「美術館機能」と文化政策の司令塔としての「アートセンター機能」に、「エデュケーションセンター機能」の3つの軸を併せ持つ美術館として整備。「博物館相当施設」としての整備を検討。



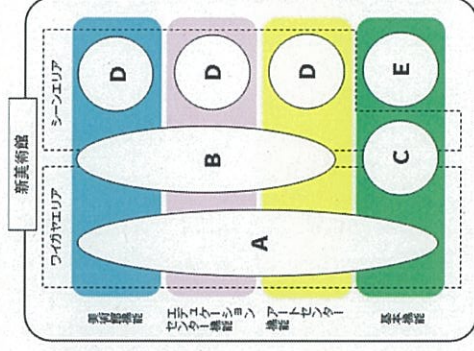
3. アクション

(1) 事業展開

グローバルコミュニケーション事業	・地域性にこだわりの八戸を世界とつなぐ美術館事業 (調査研究、収集保存、展示等)
アートエデュケーション事業	・文化とまちをつくる人を育む共育普及事業 (大学・高専連携、エデュケーションプログラム開発等)
アートのまちづくり推進事業	・アートの力をまちを動かす力に変える文化創造事業 (多文化推進、アートプロジェクト、情報発信等)

(2) 施設整備方針

3つの機能が複合的に事業展開できるよう、フレキシブルな使い方が可能な空間整備を検討するほか、いつも活気があり、創造の種が生まれる雰囲気のある「ワイガヤエリア」と、非日常的な空間としての「シーンエリア」の2つの顔を持つ美術館としての整備を検討する。



- 「A」：入場者及び運営スタッフが相互交流できる開放的ゾーン
- 「B」：自由度の高い利用を可能とするゾーン
- 「C」：「ワイガヤエリア」と「シーンエリア」をつなぐゾーン。
- 「D」：美術館としての非日常性や風格を漂わせるゾーン
- 「E」：関係者専用ゾーン

4. 整備プラン

整備スケジュール

- H28：基本構想策定、設計者選定
管理運営計画策定着手
- H29：基本・実施設計、建物解体
- H30：建築工事（～H31）
- H32：開館予定

設計者選定

設計段階で多様な意見を反映できるよう、公募型の企画提案方式（プロポーザル方式）を採用する

＜建設予定地＞



